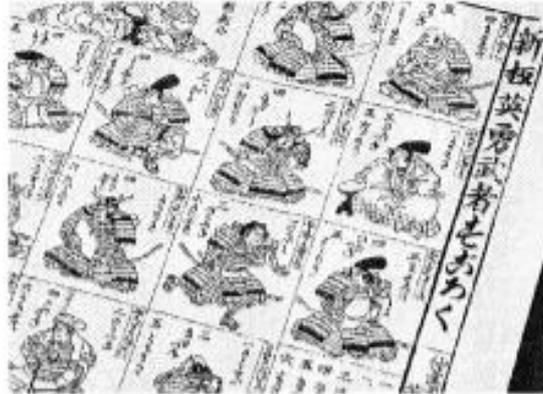


幕末すごろく 鮮やか



版木見つかる 彫り、細かく丁寧

江戸時代末期に仙台でつくられたとみられるすごろくの版木が見つかった。武士22人が並ぶ「武者すごろく」と、東海道を旅する「道

中名所すごろく」を1枚の版木の表と裏に彫っている。保存状態は良く、鮮明に紙に刷り出すことができる。写真。

発見したすごろく研究家の吉田修・築地双六館館長

は「版木が世の中に出るのはまだだが、彫りが細かく丁寧だ。東北地方の武士が登場するのが特徴で、東海道の旅も楽しく描かれている」と話している。

版木は山桜でつくられ、縦29センチ、横46センチ、厚さ2.5センチ。「仙台国分町十九軒菅原屋安兵衛」と幕末の出版業者の名が刻まれている。版木は墨の一色刷り用。

吉田さんがネットオークションで入手した。